

## 1 事業総括

新規事業開始者数は通所、訪問とも昨年度と同数であるが、月平均利用者数は増加している。この原因として、1年間の利用期間を延長するケースが増えた事が挙げられる。千駄ヶ谷荘においても金銭管理に課題がある方や、精神疾患等を抱える方など、継続した通所事業による支援を必要とする利用者が増えている現状がある。

地域からの直接利用も今年度は2名開始した。これは施設説明会等で事業案内を積極的に行った結果、通所事業サービスのニーズが地域にも一定程度あることを裏付けたと考えている。

また更生施設と同様に通所事業においても就労支援を主要目標としており、3月末での在籍就労率は7割以上を維持している。退所後、通所事業利用中に離職してしまっても、新たな就職先を紹介するなど、粘り強く再就職支援を実施した。

その他、今年度は借上げアパートを1件新規に契約した(全4室)。このことにより、通所事業の機能の幅を拡がり、より多くの利用者の地域移行が見込まれることとなった。今後は、通所事業利用者が就労を継続しながら、地域生活をより安定的に送ることが出来るかが課題となる。

	定員		29年度実績					28年度実績					
			新規開始数(対定員利用率)					新規開始数(対定員利用率)					
通所	27人		16人(59.2%)					16人(59.2%)					
訪問	3人		3人(100.0%)					3人(100.0%)					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
通所	24	22	23	26	26	26	25	26	26	26	26	24	25.1
訪問	2	2	2	1	2	3	3	2	2	3	3	2	2.2

## 2 主要目標に対する成果

### (1) 地域生活の定着に向けた柔軟な個別支援の実施

施設機能を活用しながら、安定した地域生活支援を実施。今年度も生活の支えとして食事無料サービスを行い通所率の向上に努めた。家賃、公共料金支払い確認を含む個別的な金銭管理支援も実施した。

### (2) 各種行事やプログラムを通じて季節感に富んだ支援を実施

毎月ミーティングを開催し、利用者の意見を組み込んだ様々の行事を実施。地域生活での楽しみの場を数多く提供する事ができた。今年度はじめて通所利用者と共に地元にある神社の夏祭りボランティアに参加。利用者の地域貢献の意識を高める事ができた。

### (3) 就労者に対する柔軟な支援の展開

仕事上での悩み、ストレスにも丁寧な傾聴を実施。職業相談員と連携して就労継続支援を実施した。職場訪問も行い前向きに就労に取り組めるような声掛けも行っている。

### (4) OB地域生活支援事業による継続性のある地域生活移行支援

通所事業終了者にも緩やかな地域移行を目的にOB支援事業利用を斡旋した。OB利用者も各種行事やプログラムに数多く参加した。今年度新規OB登録者は6名。

## 3 運営管理

- ・職員間で安否確認の徹底を確認。安否確認表を用いて、連絡の取れないケースにおいては緊急訪問を実施。今年度も大きな事故は生じる事はなかった。
- ・履歴書作成や面接同行等、きめ細かい個別就労支援を実施した。一度離職した後も、粘り強く再就職支援を実施した。
- ・看護師、栄養士の専門性を活かして、個別相談を実施。健康への意識を高める支援を実施した。
- ・利用者が主体となって園芸活動を行い、施設内に畑を作った。その畑で取れた野菜を調理実習の材料とし利用した。
- ・通所室の利用促進を目的に、観葉植物や水槽を置くことで、利用者が安らげる環境を整備した。
- ・病院での検査前、食事制限が必要な利用者を一時入所事業で受け入れ、きめ細やかな支援を実施した。(他、一時入所事業利用者1名)
- ・借上げアパート事業や社会復帰促進事業、地域の障害福祉サービス等の社会資源を積極的に活用し、地域生活支援を実施した。
- ・緊急入所からのアパート転宅の際にも通所事業を活用し、継続性のある支援を実施した。